

## 『あの日』から考えること

伊東市立門野中学校三年 松森 藍心

あの日、僕たちは普段と変わらず、授業を受けていました。梅雨の期間中だったため、蒸し暑い日が続いており、その日もいつも通りの蒸し蒸しとした暑さでした。教室は、エアコンがきいていて、とても涼しく、英語の先生が文法の説明をしてくれていました。

その時、いきなり電気が消えたのです。急な出来事に、教室内はざわざわしており、先生も驚いていました。

この停電の原因について、後で知ったことなのですが、校地内にある学校全体の電気を制御する部屋に、一匹の蛇が侵入して、ショートしたことが原因だったそうです。停電した状態での授業は先生にとっても、僕たちにとっても厳しいものでした。教室は暗いため、カーテンを全開にしました。先生は授業で使うはずだったプロジェクターやタブレットが使えず、僕たちはクーラーの使えない蒸し暑い教室で授業を受けるという地獄の時間が始まりました。

そんな中、職員室にいた先生方は、災害時用の放送機器を使って、状況を全校につたえようとしてくれていたのですが、電気が使えないので、放送することができなかったそうです。教育委員会や電気屋さんとも連絡を取ろうとしたのですが、電気がないと電話も使えないそうで、先生方の個人持ちのスマホで連絡を取り合うことになったそうです。

そして、停電から約二時間が経った頃、ようやく教室が明るくなりました。電子黒板もエアコンも扇風機も使えるようになりました。電気があることのありがたさを痛感しました。

しかし、喜びも束の間、そんな僕たちに再び悲劇が襲いかかります。なんと、停電の影響で、給食室の冷蔵庫も止まってしまっていたのです。そのため、その日に予定されていたビーンズサラダやデザートグレープフルーツが提供できなくなってしまったのです。結局、給食は福神漬けなしのカレーライスのみとなりました。当然、牛乳もありませんでした。空腹が満たされないまま午後の授業を終え、下校しました。

この日、僕が経験したことは、災害の縮小版なのではないでしょうか。もし地震が起きて、今回のように電気が使えなくなったら、と考えると、放送ができないので、防災訓練の時のように放送で避難の指示を出すことができません。また、その地震がそんなに大きくなかったとしても、最近の授業はインターネットを利用することがとても多く、電気が使えなくなるというだけで、授業に遅れが生じてしまう可能性が大いにあります。

さらに、一番問題になるのが食料不足です。この日は、僕たち生徒の健康を最優先に安全な給食を提供するため、カレーライス以外の給食は全て廃棄されました。しかし、実際に災害が起きた時には、食料はとても重要なもののひとつです。食べられるものは、なるべく食べようという考えがとても大切になってきます。

この日の出来事で、僕には三つの問題点が見えてきました。

まず、学校のような場で、電気が使えなくなった時、多くの生徒や先生たちにどのように

状況を伝えるのか。

次にインターネットに頼っている今、電気が復旧するまでの間、どのようにして授業を行うのか。

また、冷蔵庫が止まってしまった中、食事をどうするかの三つです。

これらの問題を解決するためには、たくさんの時間とお金がかかります。

災害はいつ起こるかわかりません。今すぐにでもできることに取り組んでいくことが大切であると僕は考えます。

学校だけではありません。普段の生活ではスマートフォンの存在は、とても大きなものです。これが使えなくなると、多くの人困るでしょう。そうならないためにも、今からスマートフォンやインターネットに頼りすぎない生活を目指すべきです。

僕は、あの日の出来事から、今身の回りにある便利な生活について、いろいろと考えることができました。皆さんも、何かあってからではなく、日ごろから備えられることを考え、今すぐにでも自分にできることを始めてみてください。